

秋田市の中心市街地は遊休地、空き店舗などが顕著となっており、中央街区では商業として利用されている土地は半分程度になっている。また居住人口はほぼ横ばいであるが、高齢化率は市全域より若干高く、中央街区の歩行者通行量は年々大幅に減少している。その中で秋田市中心市街地活性化基本計画の構想の一つである秋田拠点センタービル「アルヴェ」の整備が行われた。



「アルヴェ外観」



アルヴェ内の「きらめき広場」

秋田拠点センタービル「アルヴェ」

アルヴェは市民交流の核として位置づけられた施設で、賑わいの創出、市民生活の充実、市民の能力発揮による地域づくりを目的としている。秋田市と民間事業者の連携により、市民の交流空間と魅力ある都市機能を集積した複合ビルの整備を行った。

